

人間発達コース将来構想（案） (プロジェクトD)

○前提条件

県の最終案が決定されて、その変更が困難であることが確定すること。

○人間発達コースの在り方

- (1) 国際文化学科の中の専攻またはコースとして位置づける。
- (2) 教育文化専攻（コース）または国際教育専攻（コース）とする。専攻制の場合、入学定員は30名程度を考える。
- (3) 専攻とする方が望ましい。その理由は①～④の通り。
 - ① コースに分かれていらない1年次には、コース固有の専門教育の科目が開設できず、結果的に履修科目が教養教育、学科共通科目だけとなり、学生の専門教育への意欲をそぐ。
 - ② 小規模校での少人数教育のメリットを、授業だけでなく、学生指導等においても幅広く生かすためには、専攻を入学時の募集単位として、適正規模の所属組織の中で、1～4年次生が一体感を持てるように配慮することが必要である。
 - ③ 2年次、3年次に、免許・資格取得のための科目が集中し、学生の負担が大きい。また、過密な教育課程は教育的にも適当でない。
 - ④ 小学校教員養成課程開設に必要な専任教員数は、入学時の募集単位の入学定員で決まる。専攻を入学時の募集単位として、専任教員数も絞り込むことができる。

○教育文化専攻（コース）の構想理由

（1）教育・保育に関わる優秀な人材の育成

国・広島県での教育改革に、教育文化の臨床・実践的研究及び初等教育・保育分野の人材養成により貢献する。また、経費負担が少ない公立大学であることを生かして、経済的にハンディキャップのある優秀な学生に、教育界・保育界へ貢献する機会を提供する。

（2）男女共学による教員・保育士養成

男女共学により、女子学生に加えて、男子学生の小学校教員と保育士養成を行う。

広島大学、県内私立大学のいずれにもなくユニークな存在となる。

（3）教員・保育士のニーズの増加

退職教員の増加、教員の配置改善等により小学校教員の採用数が今後上向きになる。

また、保育所待機児童ゼロ政策、保育ニーズの多様化等により4年制大学卒の保育士へのニーズは今後増加する。

（4）国際教育専攻（コース）の構想

国際教育専攻（コース）とする場合は、小学校での英語教育、学校における国際理解教育などに関連させて検討することとする。

○教員組織

区分	募集単位が学科である場合 (コース制) (入学定員 85名)		募集単位が専攻である場合 (専攻制) (入学定員 30名程度)	
	他に中・高教員養成課程を置く場合	他に中・高教員養成課程を置かない場合	他に中・高教員養成課程を置く場合	他に中・高教員養成課程を置かない場合
必要専任教員数	小免教科	9名	9名	5名
	小免教職	5名	5名	3名
	中高免教職	1名	0名	1名
専任教員の配置計画	小免教科	A, B, C, D, 現国際文化学科から 5名借用	同左	A, B, C, D, 現国際文化学科から 1名借用
	小免教職	E, F, G, H, 教育学後任補充 1名 (1)	同左	E, 心理学 1名, 教育学後任補充 1名 (1)
	中高免教職	教育学後任補充 1名	なし	心理学 1名
	小免非常勤コマ数 ⁽²⁾	8コマ	8コマ	8コマ
	退職(予定)者	I, J, K, L	同左	同左
	専任教員削減数	1名	2名	3名
	社会福祉学科へ異動	なし	なし	心理学 1名
				心理学 2名

注1 : ⁽¹⁾の教育学後任補充 1名は、臨床教育学を専門として、かつ、国語、算数、社会のいずれかの教科の教育内容論および教育方法論が担当可能である者とする。

注2 : ⁽²⁾の小免非常勤コマ数は現在 19コマである。

注3 : 保育士養成課程開設に必要な専任教員数は入学定員 85名の場合は 8名、入学定員 30名程度の場合は 6名である。いずれも、上に示した小学校教員養成課程の基準を満たすことでクリアできる。

教育文化専攻（コース）の構想案

